



2022年2月8日  
東日本旅客鉄道株式会社

## JR 東日本グループ「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」 達成に向けた取り組みについて

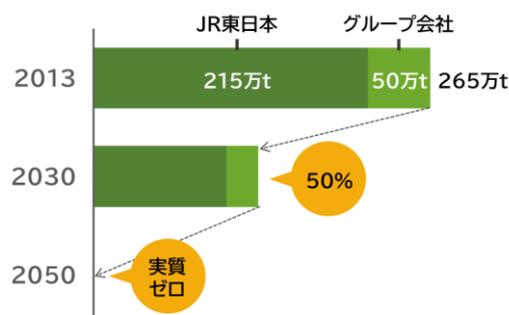
- JR 東日本グループは、将来にわたり環境優位性を向上し、社会に新たな価値を創造する企業グループであり続けるために、2050 年度の CO<sub>2</sub>排出量「実質ゼロ」を JR 東日本グループ全体の長期目標としています。
- グループの総力を挙げて、エネルギーを「つくる」から「使う」までのすべてのフェイズで CO<sub>2</sub>排出量「実質ゼロ」に向けたチャレンジを行っています。
- 引き続き「脱炭素社会」実現への貢献に向けた取り組みを推進するとともに、環境優位性のさらなる向上とサステナブルな社会の実現を目指しチャレンジしていきます。

### 1. 環境目標「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」の目標追加

将来にわたり環境優位性を向上し、社会に新たな価値を創造する企業グループであり続けるために、2050 年度の CO<sub>2</sub>排出量「実質ゼロ」を JR 東日本グループ全体<sup>※1</sup>の長期目標に設定しています。

今回、新たに 2030 年度までの JR 東日本グループ全体の CO<sub>2</sub>排出量削減目標を 2013 年度比▲50%に設定し、目標達成に向けた取り組みを通じ、脱炭素社会実現に貢献します。

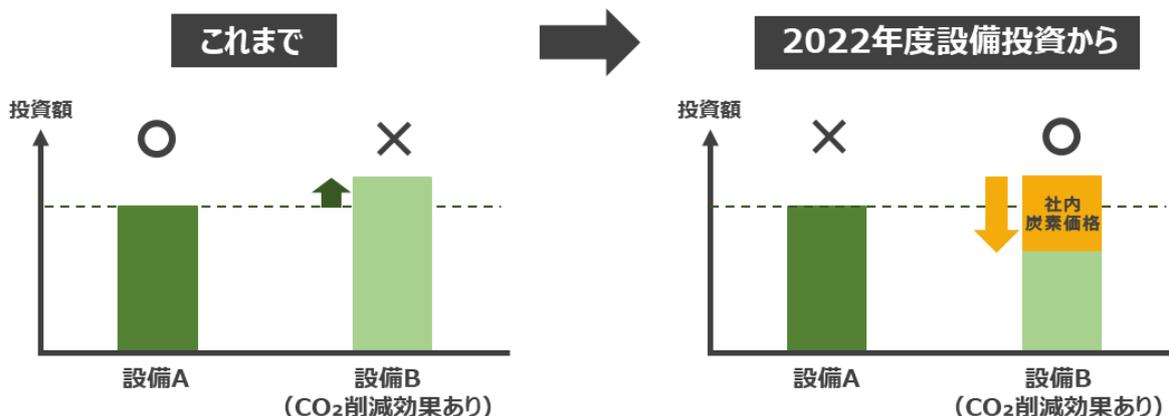
※1 「JR 東日本グループ」…海外含む 69 社



### 2. 社内炭素価格（インターナルカーボンプライシング（ICP））の採用

社内炭素価格はこれまで LED 照明の導入促進に一部活用していましたが、さらなる省エネルギー設備の導入など、CO<sub>2</sub>排出量削減につながる設備投資を促進することを目的として、CO<sub>2</sub>削減効果を金額換算し、従来の投資判断基準に加味していきます。

当面、社内炭素価格を 5,000 円/t-CO<sub>2</sub>に設定し、2022 年度設備投資より本格的な運用を開始します。



### 3. エネルギーを「つくる」フェイズでの取り組み

#### (1) 再生可能エネルギーの開発推進

東北エリアを中心に、風力、太陽光、地熱といった再生可能エネルギー導入に向け、グループ会社である JR 東日本エネルギー開発株式会社とともに積極的に開発に取り組んでいます。

これまで太陽光発電所や大型の風力発電所を順次運転開始しており、2021 年度は市貝（栃木県）、大子（茨城県）（合計 5.68 万 kW）の太陽光発電所を運転開始したほか、3 月には野辺地・柴崎（青森県、0.75 万 kW）の運転を開始する計画です。

今後も引き続き、再生可能エネルギーの開発を推進していきます。



市貝太陽光発電所（栃木県）



大子太陽光発電所（茨城県）

#### (2) 東北エリア CO<sub>2</sub>排出量ゼロに向けた取り組み

2030 年度までに東北エリアにおける CO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにすることを目指しています。

この達成に向け、2022 年度より順次、東北エリアの電車運行に使用する電力に「非化石証書<sup>※2</sup>」を利用し、実質的に再生可能エネルギー由来に置き換えます。

2022 年度は福島県内の常磐線に導入し、実質 CO<sub>2</sub>排出量をゼロにすることにより、通年ベースで 1.2 万 t の CO<sub>2</sub>排出量削減を見込んでいます。

※2 「非化石証書」…再生可能エネルギーで発電された電気が持つ環境価値（CO<sub>2</sub>が排出されないこと）を証書化したもの

### 4. エネルギーを「使う」フェイズでの取り組み

#### (1) 水素ハイブリッド電車いよいよ実証試験開始

開発・製造を行っていた水素ハイブリッド電車（愛称名：HYBARI）が落成し、2022 年 3 月下旬より、南武線（川崎～登戸）、鶴見線および南武線尻手支線において実証試験を開始します。今後は実証試験を重ね、将来の社会実装を推進していきます。



#### (2) 環境にやさしい旅の提案 ～環境にやさしい鉄道とあいった、新たな旅を提案～

2022 年春、新幹線と水素を燃料とする燃料電池自動車(FCEV)や超小型電気自動車(バッテリーEV)の「ゼロエミッション車」のレンタカーを組み合わせた「環境にやさしい新たな旅」を提案します。

「えきねっと」で、新幹線と駅レンタカーをセットで予約すると駅レンタカーがおトクな料金でご利用いただける「えきねっと + 駅レンタカープラン」に水素を燃料とする燃料電池自動車や超小型電気自動車が利用できる特別プランが登場します。

環境にやさしい鉄道とゼロエミッション車を使った新たな旅をこの機会にぜひご体験ください。

### ①水素を燃料とする燃料電池自動車（FCEV）レンタカー

対象の各営業所に2台ずつ計8台配置します。

- ・期間：2022年3月1日～
- ・対象となる駅レンタカー営業所：高崎、郡山、仙台、新潟の各営業所
- ・利用料金：6時間5,360円～（えきねっと+駅レンタカープラン利用時）



※レンタル車両は、2014年～2020年に生産されていた初代燃料電池自動車となります

※利用料金は、免責補償料、NOC(ノン・オペレーション・チャージ)サポート料、消費税込、燃料代およびその他オプション別です

※利用料金は時期によって異なります

※各営業所最寄りの水素ステーションが休業となる期間は、貸出を休止する場合があります

### ②超小型電気自動車（バッテリーEV）レンタカー

各営業所に2台ずつ計10台配置します。

- ・期間：2022年5月中旬～
- ・対象となる駅レンタカー営業所：小山、郡山、仙台、新潟、軽井沢の各営業所
- ・利用料金：1回3,900円（えきねっと+駅レンタカープラン利用時）



※貸出期間は別途JR東日本レンタリース(株)のホームページなどで公開します

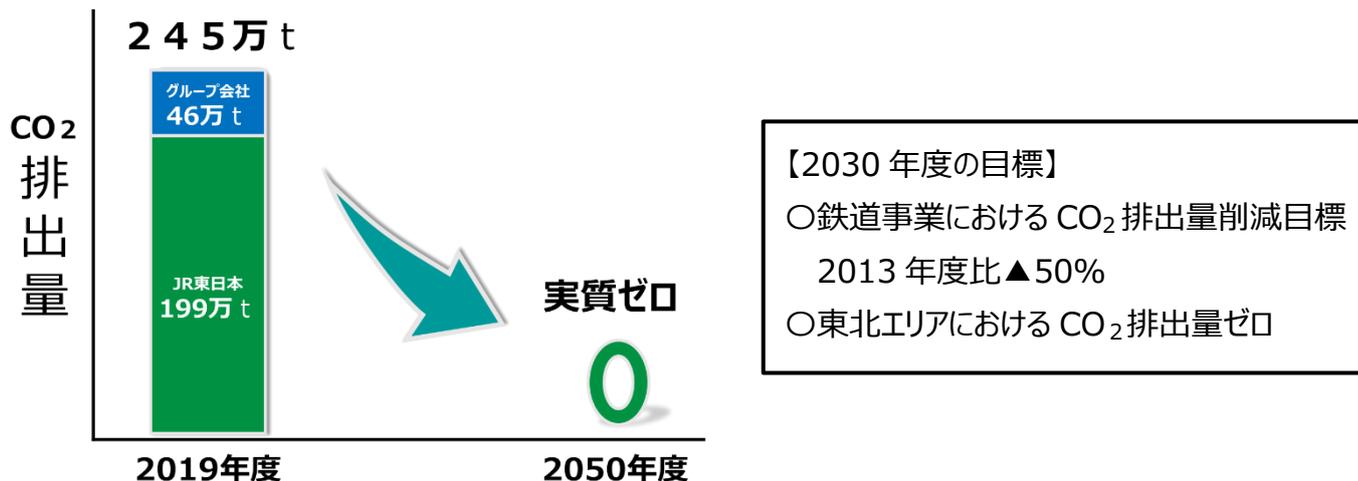
※設定は日帰り利用のみとなります

※利用料金は、免責補償料、NOC(ノン・オペレーション・チャージ)サポート料、消費税込、その他オプション別です

※燃料（充電）の満タン返しは不要、燃料（充電）の料金精算もありません

## JR 東日本グループ「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」について

JR 東日本は、グループ経営ビジョン「変革 2027」において、「ESG 経営の実践」を経営の柱として掲げ、2050 年度の鉄道事業における CO<sub>2</sub> 排出量「実質ゼロ」を目指す環境目標「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」を 2020 年 5 月に公表しました。2020 年 10 月には、さらに「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」を JR 東日本グループ全体の目標とし、グループ一体となって 2050 年度の CO<sub>2</sub> 排出量「実質ゼロ」に挑戦することを公表しました。

○ 2050 年度 CO<sub>2</sub> 排出量削減目標

## ○ エネルギーネットワーク (イメージ)

